令和4年度

# 年報

2022

横浜国立大学 地域連携推進機構 成長戦略教育研究センター

# CONTENTS

目次

I .	センター概要	2
II.	教育人材育成事業	3
_ •	1. 学部生へのキャリア教育	3
	(1) アントレプレナー入門(担当:教授 為近 恵美) ···································	
	(2)経営者の役割と従業員の役割(担当:非常勤講師 井手 美由樹) …	
	(3)実践新商品企画(担当:非常勤講師 湯沢 雅人)	
	(4) 神奈川のみらい(担当: 客員教授 船場 ひさお)	
	(5)研究開発論(担当:教授 為近 恵美)	
	(6) アート・マネジメント(担当:非常勤講師 永澤 桂)	11
	(7)地域ではじめる新しいソーシャルデザイン	
	(担当:客員教授 船場 ひさお、非常勤講師 水井 涼太)	13
	2. 大学院博士課程前期学生へのキャリア教育(副専攻プログラム)	15
	(1)イノベーションと課題発見I(担当:教授 為近 恵美)	15
	(2)イノベーションと課題発見Ⅱ(担当:客員教授 船場 ひさお)	17
	(3)神奈川県の取り組む技術課題(担当:教授 為近 恵美)	19
	3. 講義以外の人材育成事業	21
	(1)YOXO カレッジ	···· 21
	(2)アイデア創出ワークショップ	
	(3)シュタインバイス大学日本研修	
	(4) スキルセミナー	
	(5)第5回 AOKI 起業家育成プロジェクト「起業家育成講座」	27
III.	ベンチャービジネス支援事業	29
	1. ベンチャー支援施策『フェーズⅠ』、『フェーズⅡ』	29
	2. ベンチャー支援採択者その後の活躍	
	3. 他のベンチャー支援プログラムとの連携	
	4. セミナー開催	
π/	ドクターキャリア開発事業	32
IV.		
	1. 活動全般	
	2. 企業と博士の交流会:キャリアパスフォーラム	
	3. 各種イベント・セミナー	
	(1) ソニーグループ勝本氏講演会	
	(2) キャリアセミナー「今からはじめる博士のキャリア戦略と自己アピール」	
	(3) 学内イベント「先輩博士の就活体験談 〜内定者に聞く〜」 (4) 共催イベント	
	(4) 共催1ペント	
	4. コンノーン/ム冶割	5/

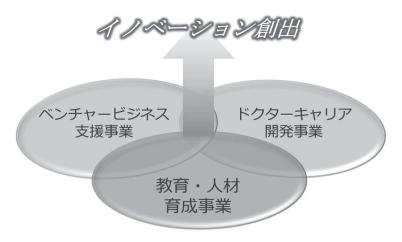
# I. センター概要

「成長戦略教育研究センター」は、2011年に「企業成長戦略研究センター」と「ベンチャービジネスラボラトリー (VBL)」の統合により誕生した「成長戦略研究センター」を前身とし、2020年度より地域連携推進機構の下部組織として新しく生まれ変わりながら、文理融合を実践する教育研究組織としてイノベーション創出の拠点となるべく活動してきた。

現在は、イノベーション人材の育成を主なミッションとし、下記の3つの事業に取り組んでいる。

- 1. 教育・人材育成事業
- 2. ベンチャービジネス支援事業
- 3. ドクターキャリア開発事業

教育・人材育成事業によりイノベーション創出に資する起業家型人材を育成し、そこから 生まれる学生ベンチャーを支援する。また、より多くの博士人材が社会で活躍できるようキャ リア開発支援をすることで、高度なイノベーション人材を輩出し、これにより地域や社会に 貢献することを目指している。



成長戦略教育研究センターの取り組む事業

# 【2022年度 センター所属教員一覧】

センター長	教授	森田 洋
センター専任教員	教授	為近 恵美
センター教員	客員教授	船場 ひさお
センター教員	非常勤教員	望月 雅之
センター教員	非常勤教員	勝木 信二
センター教員	非常勤教員	木内 恵子

# Ⅱ. 教育人材育成事業

当センターでは起業家型人材の育成を目標に、学部や大学院での教育を行っている。学部生の起業家意識を醸成し、社会課題の解決のための起業を目指す人材や経営者目線で新しい事業分野を開拓できるような起業家型人材の育成のための科目と、大学院生向けには、より高度な知識をベースにした研究開発型イノベーション人材育成のための科目を提供している。特に当センターの役割として、将来のキャリアを広く意識し、幅広い視野を持つ人材を育てるという観点から『アントレプレナー入門』、『経営者の役割と従業員の役割』、『神奈川のみらい』などを中心に7科目を開講した。

そして、より専門性の高い大学院教育においては、理系の大学院生を主な対象として、将来イノベーション創出に貢献できる人材を育てるための教育として、社会の仕組みを知り、イノベーションや起業について考える機会を与える『イノベーションと課題発見I』、次のステップとして、自らの研究シーズをビジネスに結び付けて考えさせる『イノベーションと課題発見II』を開講し、インターンシップ科目と合わせて、起業家人材養成教育プログラム(副専攻プログラム「ベンチャービジネス」)を提供している。また、神奈川県の科学政策グループと連携して県が取り組む研究開発についての講義『神奈川県の取り組む技術課題』を開講し、理系人材に専門分野とは異なる領域の幅広い知識を身に付けるような教育を行っている。

# 1. 学部生へのキャリア教育

# (1) アントレプレナー入門(担当:教授 為近 恵美)

「アントレプレナー入門」 春学期開講 火曜 4 時限、履修者 43 名

#### 【履修者のプロファイル】

	教育学部	経済学部	経営学部	理工学部	都市科学部	計
1 年生	0	0	27	3	0	30
2年生	1	1	2	5	0	9
3年生	0	0	0	2	1	3
4 年生	0	1	0	0	0	1
計	1	2	29	10	1	43

本講義は、成長戦略教育研究センターのミッションである起業家型人材育成のための体系的教育の一環として、全学部生を対象に全学教育科目として開講している。単に講義を聴くだけの受け身の授業ではなく、グループディスカッションやビジネスプランの作成といったグループワークを行う、参加型の授業(アクティブラーニング)を採り入れている。

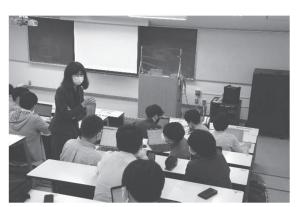
# 【講義スケジュール】

No.	テーマ・講師	No.	テーマ・講師
1	オリエンテーション、起業に関する考え方アンケート	9	ビジネスモデルキャンバス (BMC)
2	起業とは?税理士のベンチャー起業 ((株)ipoca 代表取締役社長 一之瀬 卓氏)	10	新規事業プランニング:中間発表
3	アントレプレナーシップとは?なぜ起業が求められるのか?	11	トレンドとマーケティング (TREND UNION (Edelkoort East(株)) 代表取締役 家安 香氏)
4	新規事業プランニング:社会課題からのニーズ抽出	12	新規事業プランニング:グループ討議
5	新規事業プランニング:ビジネスプランを作ろう	13	起業における金融の役割 ((株)横浜銀行 福島 正一氏)
6	社会課題からの起業 (兼業) (ジョージ・アンド・ショーン(株) CEO 井上 憲氏)	14	最終発表会(プレゼン)
7	事業経営に必要な知識、グループワーク	15	まとめと講評、最終アンケート
8	  ビジネスを始めるってどういうこと?		

講義の目的は、必ずしも実際に起業を目指す学生だけではなく、企業に就職する場合でも、組織の中で常にビジネスを意識し、経営者の視点で業務を遂行することのできる人材、それによりイノベーション創出に結び付けることのできる人材育成を目指している。講義の最後に履修者にアンケートをとった結果、学生のうちにもしくは卒業後に起業したいと考える学生が28.5%、一旦就職後に独立を考える学生も合わせると71%に及び、安定した企業での終身雇用を求める学生は5%に満たないという結果となった。講義を受けたことで起業に対する意識が変わったと答えた学生が36%程いたことから、この講義の影響を示している。



講義風景



グループワークの様子

# (2) 経営者の役割と従業員の役割(担当:非常勤講師 井手 美由樹)

春学期開講 履修者 182名

学部	経済	経営	理工	都市科学	教育学部	教育人間 科学部	合計
1年	64	1	25	21	1	-	112
2年	1	4	30	3	-	-	38
3年	2	3	6	9	-	-	20
4年 (その他)	2	2	2	2	3	1	12
合計	69	10	63	35	4	1	182

この講義は、学部生を対象として、産業人材育成支援を目的に、企業で実務経験のある 教員が開講している。2022 年度の授業は以下の三つの観点で構成された。

- ①株式会社の株主、経営者、従業員の役割、及び会社組織 会社で働く者の立ち位置を考え確認できる知識を取得することを目的とした。
- ②雇用契約、人事制度、社会保険制度など会社ですぐに役立つ知識の習得 企業の経営企画、総務、人事、経理分野の業務について具体例を示しながら解説した。 ③実務家に聴くビジネス社会の抱える課題、それらへの取り組み

従業員と経営者、両者の視点を持ち、社会性を養うことを目指している。ビジネス社会で起こりうる様々な課題について、それぞれの分野の専門家をお招きして講義をお願いした。社会保険労務士の方には働き方改革や社会保険の仕組み、海外勤務経験のあるコンサルタントの方には海外で働く楽しさや苦労、経営者の方にはビジョンの重要性、財務・監査の専門家には会社のお金の流れやその確実性について、弁護士の方には会社経営に関わる法律を中心にご講義いただいた。今年度の新たな取り組みとして、企業勤務と経営者の両方を経験された方にキャリア形成についてお話いただいた。

最終レポートでは、各々が最も興味を持ったテーマについて、思考を深めることを課した。本科目が社会に出るにあたり、社会人として最低限の知識習得、自分の意見を表現できる能力育成の一助になれば幸いである。

【講義スケジュール】 (\*は実務家による講演)

口	テーマ	口	テーマ	口	テーマ
1	オリエンテーション	6	キャリアを築く (*)	11	SDG s の考え方に基づく経 営 (*)
2	仕事の種類と働き方 の多様化	7	海外で働く(*)	12	会社数字成り立ちと見方
3	従業員の役割	8	会社の構成	13	企業における会計と監査 (*)
4	会社の規則	9	起業とは	14	会社を取り巻く法律(*)
5	社会保険の仕組みと 働き方改革(*)	10	経営者の役割	15	会社の承継と継続的発展

# (3) 実践新商品企画(担当: 非常勤講師 湯沢 雅人)

本授業は、企業等において新商品を企画する際に必要となる知識やスキルを習得してもらうことを目的としている。そこで、戦略やマーケティングに関する経営学の基礎知識を交えながら、商品を企画・開発する手順を解説、さらに演習にて受講者がそのプロセスを仮想的に体験することで、学術的理論と実務を行き来しながら商品企画の要点を理解できる場を提供し、理論に裏付けされた新商品企画の遂行能力を育成することを目指した。

授業のコンセプトは引き続き「商品企画の楽しさや醍醐味の仮想体験」とし、昨年度の 反省点に対処しながら2年目に挑んだ。

まず、前半の講義では、商品開発を取り巻く事業やマーケティングに関する知識をレクチャー、特に商品の企画・開発に不可欠なマーケティング・マインド、すなわち顧客を理解することの重要性と顧客価値を創造する際の着想法に重点を置いた。そして後半の講義では、商品の企画・開発プロセスを順を追って解説する一方で、履修者は並行して、各自が題材として設定した商品につき、講義で学んだ知識や手法を用いてそのプロセスをトレースする形で演習を進め、模擬的に実務を体感してもらった。

履修者数は312名だったが、経営学部生が過半数を占める175名、さらにその9割強が1年生であった。経営学部では1年次から経営戦略論やマーケティング論を履修できることから、理論やフレームワークの解説が重複していたようだが、本授業では実例を交えた適用法として紹介しており、さらに演習にて各自のテーマに即して理論やフレームワークを使ってみることで、理解の深化や知識の定着に繋がるという効果があった。

また、研究・開発の立場で「商品」と近い位置にある理工学部生は 48 名と昨年度並みであった一方で、経済学部生が 53 名、教育学部生が 12 名、都市科学部生が 24 名と昨年度の少数派がいずれも増加し、学年の分布にも広がりが見られた。

#### 【講義テーマ】

- 1 イントロダクション(本授業の目的とゴール・全体の枠組み)
- 2 事業およびマーケティングと商品の役割
- 3 顧客価値とは
- 4 商品開発プロセス
- 5 商品企画の手順
- 6 事業ドメインと環境与件
- 7 戦略の策定(市場・競合・自社分析と商品戦略)
- 8 顧客の理解
- 9 商品コンセプトの策定
- 10 価値創出の具現化①: 仕様の検討と設計
- 11 価値創出の具現化②:開発とプロトタイピング
- 12 顧客へのデリバリー
- 13 商品企画に求められる体制
- 14 商品開発の成否の評価
- 15 まとめ: 商品企画を円滑に遂行するための要点

#### 【履修者の分布】

	経済学部	経営学部	理工学部	教育学部	都市科学部	計
1年	45	163	16	0	20	244
2 年	6	5	23	4	2	40
3 年	2	5	5	7	0	19
4年	0	2	4	1	2	9
計	53	175	48	12	24	312

今年度もオンデマンド型による開講であったが、授業に対するアンケート調査の結果から、前述した講義の内容、および演習を含めた進め方は、昨年度からの改善を試みた事項を含め、概ね狙い通りに機能したと思われる。

そして、履修者数の制限を設けることなく、希望者全員に受講してもらえたことは、リモート授業の大きな利点であったが、一方で受講教材を視聴しない履修者が一定数存在しており、授業を運用する上での難しさを感じた。

また、対面での授業が叶わなかった中、履修者間の意見交換の場を設けるべく、希望者に対してリモート会議あるいは授業支援システムの掲示板機能を利用した模擬的なグループワークの機会を用意したが、上手く機能させることができなかったことは反省点である。

#### 【履修者の声(アンケート調査への回答より)】

- 商品企画に関する体系的な学びが得られた。ただ学ぶのではなく、実際に講義内で 自分が商品を企画することを前提にして学ぶことでより実学的な知識を得ることに 繋がり、商品企画の面白さや難しさも実感することができた。[経営学部 1 年]
- 経営学概論や経営戦略論、マーケティング論で学習したことをこの講義でも学び、 それを商品企画を通して実際に使ってみることでより理解が深まりました。実践することで身につく感じがして楽しかったです。[経営学部 1年]
- 商品企画の苦労や大変さを理解しました。また、自分が実際に勉強してきたことの知識の重要性と顧客ニーズを真剣に考えることの重要性を学ぶことができ、とても貴重な経験をすることができたと感じています。[経営学部 2 年以上]
- 商品コンセプトの設定から学ぶことはとても多かったと思います。顧客の課題から 一言で表すコンセプトと、そのコンセプトの多方面からの具体化など、この講義で しか学ぶことのできない実践的なものだったと思います。[経営学部 1 年]
- 商品企画では、「売る」ことを重視するのではなく、常に顧客にどのように商品の 価値を届けるかを意識する必要があることが分かった。 [教育学部 2 年以上]
- 私は経営学部ではないですが、経営に興味があったのでこの講義を受講することにしました。実際に新商品を作るための過程や、実践的に新商品を作るという授業形式がとても面白かったです。[都市科学部 都市社会共生学科 1 年]
- 商品開発を勉強するというのは自分にとってそもそも概念としてなかった新鮮なことだったので、新しいことを知れたことに単純にわくわくできた授業でした。理系だから関係ないと思っていたことに興味が湧いてきたし、自分が商品開発に興味があることが分かったことだけでも大きな収穫だったと思います。世の中には様々な仕事があることを改めて実感したし、その中で文理にとらわれず好きなことを仕事にしたい、という気持ちを持つことができました。この講義を通して将来の就職に関して考えの幅が大きく広がったと感じます。[理工学部 化学・生命系学科 1 年]

# (4) 神奈川のみらい(担当: 客員教授 船場 ひさお)

平成 29 (2017) 年度に締結した神奈川県との包括連携協定の具体的な取組みの一つとして、大都市と地方の双方の特性を有し「日本の縮図」ともいえる神奈川の現状と課題について学生が理解を深め、神奈川・日本・グローバルに今後のあり方を考えていくことを目的とする全学教養教育科目「神奈川のみらい」を開講している。例年、実際に各領域で取組みを進められている現職の神奈川県職員の方々より、課題と解決に向けた取組みについて具体的なお話をいただいてきたが、コロナ禍による休講を経て 2021 年度よりオンデマンド授業として実施している。

令和 4 (2022) 年度は昨年度同様、県職員による授業の収録は大学の会議室で行い、別室で聞いている担当教員と Zoom でつなぎ、一通りのお話をいただいた後、学生が疑問に思うと予想されるポイントや、さらに話して欲しい話題などを担当教員がインタビューする形で進めた。履修生に対しては、授業支援システムのアンケート機能を活用して、県から学生に聞いてみたいことに対する回答を得たり、毎回の講義に対する感想や質問を課すなど、履修生数の多いオンデマンド授業の中でも双方向性を生み出すように努めた。この結果、学生にも県職員にも満足度の高い授業を提供することができた。

授業スケジュールを表 1 に示す。履修生は 364 名。表 2 に示すように学部・学年は多岐にわたっている。

表 1 授業スケジュール

	授業日	講義内容	担当
1	4月11日	<オリエンテーション>今、地方で起こっていること	教員
2	4月18日	プロローグ1:横浜・神奈川で活躍する企業	教員
3	4月25日	プロローグ2:SDG s つながりポイント事業	政策局
4	5月9日	神奈川県の概要と将来の目指す姿	政策局
5	5月16日	神奈川県のSDGsの取組み	政策局
6	5月23日	地域コミュニティの創生の取組み	政策局
7	5月30日	ともに生きる社会かながわ憲章	福祉子どもみらい局
8	6月6日	活力と魅力あふれるまちづくり~都市マスタープランと地域別計画~	県土整備局
9	6月13日	神奈川教育ビジョンの着実な推進(インクルーシブ教育を中心に)	教育局
10	6月20日	持続可能な社会の実現	環境農政局
11	6月27日	ロボットと共生する社会の実現	産業労働局
12	7月4日	最先端医療の推進	政策局
13	7月11日	未病の取組み・ME-BYO指標	政策局
14	7月18日	神奈川の海/地域ではじめる新しいソーシャルデザイン	教員
15	7月25日	まとめ&レポート作成	教員

表 2 履修生の内訳

	4年	3年	2年	1年	計
経済	4	6	13	11	34
経営	12	20	25	50	107
理工	6	34	100	0	140
教育	7	0	0	16	23
都市科学	4	10	16	30	60
合計	33	70	154	107	364

# (5) 研究開発論(担当:教授 為近 恵美)

#### 本授業の目的

本授業の目的は、学生に研究開発者としてのキャリア形成を考える機会を与えることである。大学院に進み、大学の研究者あるいは企業の研究開発職に進むキャリアを考えている理工学部2年次以上を主な対象に、これから関わっていく大学における研究と、その後に関わる可能性のある企業での研究開発について、その共通部分や差異を知り、これからの研鑽に役立ててもらうことを主な目的としている。

# 授業の内容

講義の前半では、研究開発とはどのようなものか、大学と企業の研究は、どのような点で共通であり、どのような違いがあるのか、また研究成果から生まれるイノベーションはどのようなものか、いくつかの事例を交えて様々な角度から解説していく。講義の後半は、将来、ビジョンを持って自らテーマ設定ができるような研究者、技術者になれるよう研究開発やテクノロジーの進化の先にある未来社会のビジョンについての討論を行い、個々人が自身の研究分野における新たなアイディアを発表する。また、最後は、「技術が支える30年後の未来社会」をテーマに各自の考えをまとめるレポートを課した。

# 本授業の構成

本講義の進め方は以下の通りである。(秋学期 月曜4限)

- 1: オリエンテーション(本講義の目的、概要、進め方)
- 2: イノベーションとは?何のために研究開発をするのか?
- 3: 研究開発とは?企業における研究企画
- 4: 研究開発とは?企業における研究開発(NTTデバイスイノベーションセンタ 都甲氏)
- 5: 大学における研究(純粋理学の研究) (横浜国立大学 名誉教授 根上 生也)
- 6: 企業における研究開発の歴史:事例(先端科学高等研究院 小清水 実)
- 7: 研究開発に活用する特許(概要と重要性)
- 8: 研究開発に活用する特許(調査方法:演習)
- 9: 発展する半導体産業と AI テクノロジー
- 10: イノベーションと未来社会(1) 導入
- 11: イノベーションと未来社会(2) 討論
- 12: イノベーションと未来社会(3) 発表
- 13: イノベーションと未来社会(4) まとめ
- 14: レポート作成
- 15: まとめ (研究開発従事者の資質とキャリア形成)

# 今年度の振り返り

今年度は、コロナ禍の影響がまだ残り、オンデマンドでの講義が多い中、大学の方針に基づいて、対面での講義とした。この影響もあってか、昨年に続き、少ない人数で、受講者数は4名のみとなったが、研究開発に本気で興味を持つやる気のある学生が集まり、少数精鋭の授業となった。少人数であることを活かして、将来の自分自身のキャリアについて考える自己理解カードソートの実習や未来社会の一環としてメタバースを実感してもらうためVR ゴーグルによるVR 体験を行ったりした。

※受講学生:理工学部4名(2年生3名、3年生1名、内1名は、聴講生)

履修後のアンケートでは、以下のような感想が寄せられた。

- ・学部卒で就職するつもりでしたが、講義を通して研究開発への興味が出てきて修士卒で 企業に就職する方が良いかもしれないと思うようになり、迷ってはいるものの大学院進学 を考えるようになりました。
- ・ (進学や進路に対する考えは)変わらないが、より博士進学への気持ちは強まった
- ・博士進学についてかなり前向きに考えるようになった。
- ・他の学科の人と意見を交換する機会はほとんどないので、自分には思いつかない意見や 発想が聞けてとても刺激になりました。
- ・対面でかつ、ディスカッションやプレゼン、外部講師の先生の講義など、講義形体が非常に好ましかった。
- ・面談の時間を設けていただいたところが良かったです。
- ・有意義な情報を提供して下さったり、親身に相談に乗って頂いたり、本当に有難うございました。
- ・大学に入って初めて聴講をさせていただいた授業でした。本当に参考になりました。楽しかったです。





新サービスアイデアの発表会の様子

# (6) アート・マネジメント(担当: 非常勤講師 永澤 桂)

# 【授業の概要】

本講義は全学教育科目として、芸術の運営、マネジメントに関心のある学生を対象に、 主に実務家による講義を中心とした内容を展開している。今年度は初回と二回目が完全オ ンデマンド型となり、三回目以降は基本的に対面講義とした(授業記録として録画をほと んどの回で実施した。また、外部講師の先生のご都合でオンデマンドのみとなった回も二 度あった)。

# 【授業の内容】

初回と二回目は永澤による講義であった。美術史の観点から、芸術家と芸術支援の歴史について、また近代以前には芸術と見做されなかった工芸などの領域が社会の変化に伴い、芸術として位置付けられたことを例に取り、芸術と社会の密接な連関性について講義した。講義の序盤で、芸術と社会がいかに強く関わるものであるか伝えられたことは、学生たちにとって好ましい展開となったと考えている。ここで得た知識や、それについての考察をもとに、三回目以降の主に外部講師による専門的な授業へと進めることができた。こうした展開が深い学びへ繋がったことがレポートや毎回のリアクション・ペーパーから確認できた。

全体の構成としては、全15回のうち、9回が外部講師、6回を永澤が担当した。9名の 先生方は、いずれも「芸術と社会を結びつけるものについて」「社会のなかの芸術の意味 について考える」といった問題についてそれぞれの仕事から答えを講義で伝えてくださっ ていた。芸術、文化の浸透が諸外国と比較したときに十分とは言い難い日本の現状で、ま たコロナによる社会状況の変化を受けながらも、社会の中で、芸術がいかに大きな役割を 果たしているのか、またそれを今後も続けていかなければならないかという責務について は、すべての先生がお話なさっていたのが印象的だった。次頁の【講義の構成】でも触れ ているが、美術、音楽、演劇と幅広い芸術分野の講師陣に加え、昨年からご参加いただい ている行政の分野の先生からの芸術、文化支援のお話は、より具体的に社会と芸術の関わ りについて実感できる内容であったようだ。今後も、学生たちの関心に寄り添う内容、ま た新たな学びとなる授業展開ができればと考えている。

# 【履修者の内訳】履修者合計 51 名

	経済	経営	理工	教育	都市科学	合計
一年生	0	0	8	2	0	10
二年生	1	4	10	1	5	21
三年生	0	5	2	2	7	16
四年生	0	2	1	0	1	4
合計	1	11	21	5	13	51

# 【授業の構成】

授業回	テーマ	講師
1	アート・マネジメントの歴史① (芸術支援の歴史)	永澤 桂
2	アート・マネジメントの歴史②(芸術をめぐる位相の変	永澤 桂
	化)	
3	転換期を迎える横浜都心部の街づくり「歴史を今に伝	恵良隆二先生
	え、今を未来に繋げる」	
	~造船所跡地のみなとみらい地区と創造都市施策のこれ	
	から~	
4	美術/美術館が社会にできること	坂本恭子先生
5	Arts と生きる—Arts は人に何をもたらして来たか、何を	西巻正史先生
	もたらし得るのか	
6	芸術領域の流動性と社会	永澤 桂
7	オーケストラ運営の現実と展望	別府一樹先生
8	美術史を多くの人に広めるために、美術史家ができるこ	永澤 桂
	と〜新聞のコラムによる美術批評	
9	俳優による演劇ビジネス/俳優自身が企画・運営・資金	五大路子先生
	集めをして公演する	
1 0	美術館における教育 美術館と来館者を繋ぐ取り組みを	藤田百合先生
	考える (オンデマンド)	
1 1	オペラ歌手を経営する~演奏家の視点による社会との交	藤木大地先生
	流 (オンデマンド)	
1 2	自治体文化行政の今ー行政が文化を取り扱うことの意味	鬼木和浩先生
1 3	美術史研究と一般的な美術書の関わりとその可能性	永澤 桂
1 4	地域社会を芸術でうごかす	田島悠史先生
1 5	総括 (芸術家のセルフ・プロデュース)	永澤 桂

今年度は、対面授業を再開したことにより、2020年度、21年度と比較すると格段に学生からの生き生きとした反応が得られた。特に外部講師の先生の中には、積極的に学生と関わろうとなさる方もおられ、その時には活発な質疑応答がなされた。こうした授業展開は対面講義ならではであり、今後も社会情勢、感染状況を注視しながら、学生にとって多くを学べる授業運営に努めていきたい。

本講義に関わってくださったすべての方々に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

#### (7) 地域ではじめる新しいソーシャルデザイン (担当: 客員教授 船場 ひさお、非常勤講師 水井 涼太)

2022 年度秋学期から全学年を対象とする全学教養教育科目「地域ではじめる新しいソーシャルデザイン」を開講した。本学は2018年5月に南足柄市、2020年9月に小田原市と包括連携協定を締結している。本講義はその具体的な取組みの一つとして位置づけられ、昨年度まで開講していた「海と地域のつながりと活性化」を発展的に再構築したものである。

本講義は、少子高齢化や急激な人口減少が進むなかで、地方経済の衰退が大きな社会課題になる一方、コロナ禍においてテレワークが一般的になったことから地方への移住に注目が集まり、それぞれの地域の特性に即した新しいビジネスをスタートさせる動きも活発になってきていることから、次のような内容で実施した。

「丹沢の山々から相模湾まで多様な地勢を持ち、観光地でありかつ高齢化・過疎化している、小田原市、南足柄市を中心とした神奈川県西部エリアの実態と現地事業者・プレーヤーによる取組み、その他国内外の事例などを学ぶ。その上で県西エリアの地域の特色を生かしたブランドづくりや商品アイデアなど、地域活性化の取組みをグループワークによって立案することによって、新しいソーシャルデザインを実践的に学ぶ。」

秋学期にはコロナ禍が落ち着いた状況にあったため、全て対面で実施することができた。履修学生は17名であり、最後までほぼ全員が無遅刻無欠席で、大変意欲的に授業に参加する様子が見られた。特に冬休み期間中、ほとんどの学生が実際に小田原や南足柄を訪れ、公共交通の使い勝手や街の人の買い物の様子などを感じ取った上で、ソーシャルデザイン・プランの作成を行なったことは、とても意義あることであった。

最終的に4チームがまとめたソーシャルデザイン・プランは"南足柄市におけるグリーンスローモビリティ運行に向けて""縁結びで南足柄の魅力を発信""工場革命"という、学生らしい視点の生かされた興味深いものである。最終日のソーシャルデザイン・プラン発表会には、講義を行った南足柄・小田原のプレーヤーをはじめ、小田原市役所、南足柄市役所の方々も対面やオンラインで参加してくださり、大変有意義な意見交換を行うことができた。

また履修学生の感想を見ると、毎回の授業でグループディスカッションを行うことがとても楽しかったようで、学部・学年の異なるメンバーで地域の課題解決に取り組むことの重要性が示されたものと思われる。

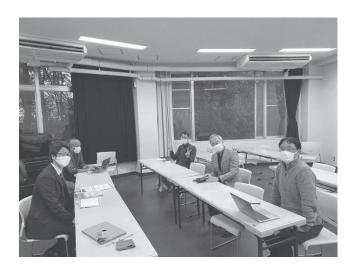
「地域ではじめる新しいソーシャルデザイン」

- ■全学教養教育科目/全学年対象/2単位/火曜日3限
- ■担当教員:水井涼太、船場ひさお
- ■授業内容:
- ・オリエンテーション
- ・担当教員が取り組むソーシャルデザインの紹介
- ・かながわの海と山 -相模・県西地域の自然と営み-

- ・小田原の現状と未来(小田原市企画部企画課/未来創造・若者課)
- ・南足柄市の現状と未来(南足柄市企画部市民協働課)
- ・小田原の地域活性化活動
- ・南足柄の地域活性化活動 (一般社団法人 Japan Hunter Girls)
- ・企業の CSV と地域活性化の事例
- ・さまざまな地域でのソーシャルデザイン事例
- ・講義内容を踏まえたチーム・ディスカッション
- ・県西地域をフィールドにしたソーシャルデザイン・プラン作成/発表



授業風景: 小田原市企画部の方による講義



授業後には、Next Urban Lab「かながわ 県西 森里川海みらいプロジェクト」メン バー教員を交えて情報交換を実施

# 2. 大学院博士課程前期学生へのキャリア教育(副専攻プログラム)

本副専攻プログラムは、大学院生を対象としたもので、下記の3科目 $6\sim8$ 単位で構成される。

「イノベーションと課題発見 I、II (各 2 単位、計 4 単位)」、「都市イノベーションと課題発見 I、II」は、ベンチャーマインドを持った起業家型人材育成を目指したアントレプレナー教育の一環として、主に理系大学院生を対象に開講している。学内外の起業関連エキスパートを講師として座学を行うと共に、「ベンチャー企業インタビュー調査」やそれをまとめて発表するグループワーク(I)と「ビジネスプラン策定」(II)を課し、コミュニケーション力、広い視野からの問題解決力、プレゼンテーション力の向上を図っている。

また、「イノベーションと課題発見Ⅲ」、「イノベーションと起業Ⅱ」(2単位)、「都市イノベーションと起業Ⅱ」(4単位)(ベンチャーインターンシップ)は、インターンシップ科目として、ベンチャーあるいは、中小企業の実態に触れると共に、企業が実際に抱える課題の解決方法を実習する機会を提供している。上記の3科目の履修者には、副専攻プログラム「ベンチャービジネス」の修了証を発行している。

# (1) イノベーションと課題発見 I (担当:教授 為近 恵美)

【講義スケジュール】春学期第1ターム 月曜4,5限

No.	4 限(14:40~16:10)	No.	5 限(16:15~17:45)
1	オリエンテーション/イノベーションと課題発見/ ベンチャーインターンシップ	2	After AI 幻滅期 AI・データ活用で変わる ビジネス&ライフスタイル 講師: KPMG コンサルティング(株) 山本直人氏
3	研究者からの起業〜夢の実現のために〜 講師:動物アレルギー検査(株) 増田建一氏	4	グループワーク ~ 起業家インタビュー ~
5	スマホを覗いて見える AI 社会と 日本の半導体産業 講師:(株)SUMCO 小森隆行氏	6	グループワーク ~ 起業家インタビュー ~
7	社会構造の変化と未来の街づくり 講師:(一社) DeruQui 中川郁夫氏	8	社会環境の変化とイノベーション 講師:EY Japan (株) 牛島慶一氏
9	宇宙ビジネスへの挑戦 講師:Space BD(株) 寺田卓馬氏	10	※特別講義 研究開発型ベンチャーの起業と事業拡大 講師:(株)オキサイド 古川保典氏
11	技術の深化がもたらす ビジネスの競争優位の進化 講師:アクセンチュア(株)清水健氏	12	グループワーク ~ 調査内容のまとめ ~
13	多様性を生かし想像を生む 「すり合わせ文化と日本型能力主義」 講師:(株)湧志創造 堂免 惠氏	14	グループワーク ~ 調査内容のまとめ・発表準備 ~
15	起業家訪問調査の発表		

昨年に引き続き、今年度も Zoom によるリアルタイムオンラインで開講した。履修学生数は 29 名であった。

(内訳:理工学府4名、都市イノベーション学府25名)

本講義は、主に理工系の大学院生向けに、自分の研究テーマをベースにビジネスを考えられるようなベンチャーマインドを持った起業家型人材育成のためのものである。ベンチャー起業や企業経営に関して民間の第一線で活躍しているエキスパート人材、社会環境を的確に捉えて、イノベーションを起こそうとしているような人材等に講義(講演)をお願いし、講義や討論から学ぶ座学パートと、自ら考えて行動する力を培うためのグループワークによる実習パートに分かれる。座学パートでは、講義を聞いた後に講師を交えた討論や自分なりのまとめを行い、毎回、講師へフィードバックするレポートを課した。グループワークの実習パートでは、実社会で課題解決に挑む起業家にヒアリング調査を実施し、内容を発表した。

グループワークでは、3~4人の8チームに分かれて、起業家調査を実施した。今年も昨年同様オンラインでのヒアリング調査となった。まず、チーム内でディスカッションを重ね、各人が興味のあるベンチャー企業を選び出し、その中からヒアリングする企業を決定し、メールや電話などでアポイントメントを取り、Zoomなどを用いたオンラインインタビューを試みた。第一希望の企業にすぐ決まるチームや、メールになかなか返信がもらえず、苦戦するチームもあったが、最終的には全チームが無事にインタビューを終えることができた。この過程で、メンバー内で議論を重ね、アポ取りやディスカッション、まとめを通じて自ら考え、学び行動する力をつけることが出来た。

各班がインタビューした会社は以下の通り(1班のみ2社に取材したため全9社)。

- ・セレンディクス株式会社
- · 株式会社 Polyuse
- ・株式会社 イツノマ
- ・株式会社ミスラ
- · 株式会社 Future Seed
- · 株式会社 COMPASS
- · LocaliST 株式会社
- · Zip Infrastructure 株式会社
- ・エスビージャパン株式会社

# **(2)イノベーションと課題発見Ⅱ(担当:客員教授 船場 ひさお)**

本講義は「イノベーションと課題発見I」で学んだことを生かし、自分の"ミッション"を発見し、それをもとにテーマを決めてビジネスプランを作り上げるものである。その過程で履修学生が、現在大学院で研究している事柄と自分の"ミッション"の関係性を考え、その"ミッション"をビジネスの視点で捉えることから、ビジネス化に必要な知識を身につけることを目指す。授業はベンチャー育成の各種専門家によるレクチャーと、演習・ワークおよびディスカッションを組み合わせて進め、履修学生がビジネスプランをつくる過程においてその進捗を発表し、様々な角度・視点からアドバイスを受けたり話し合ったりすることでプランのブラッシュアップをはかっていった。

今年度の履修学生は理工学府3名、都市イノベーション学府12名の合計15名であり、 全員が個別のビジネスプランを作成し、最終報告会で発表した。紆余曲折はあったもの の、全員が最後まで自分のやりたいこと、目指すことをビジネスの視点から考え抜いたこ とは、非常に意義あることと思う。

以下に講義スケジュールと、ビジネスプランのタイトルを示す。

【講義スケジュール】春学期第2ターム 月曜4.5限

	前半(14:40~16:10)		後半(16:15~17:45)				
第1回	【オリエンテーション】 授業の進め方 ビジネスプラン作成について	第2回	【演習】各自の棚卸し ワクワクしながらビジネスプランを考えるために				
第3回	【レクチャー】研究成果の事業化 講師:小倉里江子氏 (横浜バイオテクノロジー(株)取締役研究開発部長)	第4回	【演習】解決したい課題の発見 自分のミッションを考えてみる				
第5回	【レクチャー】顧客への価値提供 講師:湯沢 雅人氏 (センター連携研究員)	第6回	【個人ワーク】現状調査と分析 自分のミッションをビジネスの視点から考える				
第7回	【全体討論】 各自のミッションとビジネス化の現状を共有	第8回	【グループワーク・討論】 ビジネスプラン作成に向けて				
第9回	【レクチャー】事業化とは 講師: 呉雅俊氏 (株式会社TNP パートナーズ代表取締役社長)	第10回	【全体討論】事業化プラン発表とブラッシュアップ コメント・指導: 呉雅俊氏 (株式会社TNP パートナーズ代表取締役社長)				
第11回	【個人&グループワーク】 ビジネスプランブラッシュアップ	第12回	【個人&グループワーク】 ビジネスプランブラッシュアップ				
第13回	【個人&グループワーク】 発表準備	第14回	【個人&グループワーク】 発表準備				
第15回	【発表】 ビジネスプラン最終発表		【全体討論】 他者のプランへのフィードバック				

#### 【学生が作成したビジネスプランのタイトル】

- ・セルフメディアを通じて離島のアピールへの起業
- ・生徒の分からないに応える教育者のための教育
- ・産業用協働ロボットを用いた筋電義肢の開発
- ・部活動の「過熱化」抑制 ―吹奏楽部を例に―
- ・ヘルスケア maas

- ・完全伴走、利益創出へ特化した戦略コンサルファームについて
- ・「三ッ沢上町駅~横国大」の自転車シェアリング
- ・教育に対してさまざまな活動をしている人をつなげる
- 建築を繋ぐ
- ・宅配便事業における再配達業務の代行サービス
- ・「位置情報ゲーム」提供による地域活性化
- ・その BEMS、ちゃんと使えてますか?
- ・観光促進×バス利用推進アプリケーション

# (3) 神奈川県の取り組む技術課題(担当:教授 為近 恵美)

本講義は、神奈川県(自治体)と連携して、県が取り組む研究課題を理系学生にわかり やすく解説するものである。これにより、首都に隣接して研究開発機関などの多い神奈川 県の特色ある産業や技術に関する理解を深めるとともに、自身の専門分野と社会とのつな がりを意識させ、学生自らが卒業後の進路について考える時に役立てることを目的として いる。

特に自分が学ぶ神奈川県という地域には、どのような技術的な課題があり、どのようなアプローチでこれを解決するための研究を行っているのかを知ることで、何故、その研究が必要なのかを意識して、自分自身の研究テーマについても、その社会的意義や位置づけを考える力を身につけさせる。実社会に役立つ研究とはどのようなものかを知ることで、自身の大学院での研究テーマがどのようにしたら社会に還元できるのかを考えて、自らの研究テーマを俯瞰する力を身につけるよう指導している。

毎回の講義では、必ず感想レポートを書かせ、講義内容を自分の頭で反復整理し、研究内容が社会でどのように役立つのか、自分の研究分野との接点はないかなどを考えさせるようにした。この形式は、これまでも行ってきたが、講師の方にもフィードバックしている。また、最終的に県の課題に対する提案のレポートを課した。単なる提案にとどまらず、理系の研究者として研究計画の立案になるよう指導した。

例年は、10回の講義と5コマ分を2回にまとめた形で各機関への現地訪問実習を行っているが、昨年と同様に、今年度もリアルタイム Zoom によるオンライン開講とし、実習も全てオンライン実習とした。実習と言ってもオンラインという制限があるため、実際に学生が手を動かして参加する形は難しい。環境科学センターの実習では、現地に取材に行き、実験装置、実際に水質検査などを行っている様子を撮影したビデオを使って、講師が解説した。

今年度は、県の公設試以外に、県内の民間企業の研究所の紹介や NTT 研究所のオンライン見学も実施した。

【講義スケジュール】秋学期 水曜3限

No.	日程	内容	担当
1	10/5 (水)	オリエンテーション 神奈川県の科学技術総合政策	総合政策課/ 成長戦略教育研究センター
2	10/12 (水)	産業技術総合研究所の取り組む技術課題	産業技術総合研究所(KISTEC)
3	10/19 (水)	畜産技術センターの取り組む技術課題	畜産技術センター
4	10/26 (水)	農業技術センターの取り組む技術課題	農業技術センター
5	11/2 (水)	温泉地学研究所の取り組む技術課題	温泉地学研究所
6	11/9 (水)	衛生研究所の取り組む技術課題	衛生研究所
7	11/16 (水)	いのち・未来戦略本部室	いのち・未来戦略本部室
8	11/30 (水)	環境科学センターの取り組む技術課題	環境科学センター

9	12/7 (水)	特別講義:民間企業の研究開発(NTT 研究所)	成長戦略教育研究センター
10	12/14 (水)	オンライン実習1:産業技術総合研究所(海老名本所)	KISTEC 本所
11	12/21 (水)	水産技術センターの取り組む技術課題	水産技術センター
12	1/11 (水)	オンライン実習 2: 畜産技術センター	畜産技術センター
13	1/18 (水)	オンライン実習 3:環境科学センター	環境科学センター
14	1/25 (水)	特別実習:NTT 研究所オンライン見学	成長戦略教育研究センター
15	2/1 (水)	講義まとめ・討論	成長戦略教育研究センター /総合政策課

履修者:理工学部4年12名、理工学府修士課程生17名、合計29名。 今年度は、学部4年生の先取り履修者が12名参加した。





オンライン実習の動画の内容

# 3. 講義以外の人材育成事業

# (1) YOXO カレッジ

2021年度に採択された科学技術振興機構(JST)社会還元加速プログラム(SCORE)大学推進型(拠点都市環境整備型)事業の一環として「ALL 横浜街ごとキャンパス(YOXO カレッジ)」事業の中で社会人向けに起業関連講座を開講した。この事業を自立的に継承する形で、今年度は横浜未来機構の主管により「YOXO カレッジ」として新たなスキームが構築され、本学も以下の講座を提供した。

# 【開催概要】

日程 2022年10月13日~2023年2月22日まで、4シリーズ・全15講義

講座 ①入門シリーズ (3回)

- ・いまさら聞けないアントレプレナー超入門(10/13)
- ・ビジネスモデルキャンバス入門(10/20)
- ・起業における金融の役割(11/2)
- ②海外最新イノベーションメソッドと事業開発に学ぶ新規事業創出(11/9~12/14, 全5回)
- ③イノベーター養成講座 (23/1/12~2/9,全5回)
- ④デザイン思考とUX概論(2/15~22,全2回)

# 【参加者数】

4 シリーズ全 15 講義にのべ 365 名の受講生が参加した。

講座名(講師)	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	合計
いまさら聞けないアントレプレナー超入門 (為近 恵美)	9					9
ビジネスモデルキャンバス入門(望月 雅之)	8					8
起業における金融の役割(福島 正一(横浜銀行・ 創業支援デスク・グループ長))	14					14
海外最新イノベーションメソッドと事業開発に学 ぶ新規事業創出(西村 祐哉(一般社団法人ビジ ネスモデルイノベーション協会・理事))	59	62	52	45	48	266
イノベーター養成講座(中川 郁夫(大阪大学招 聘教授・一般社団法人 DeruQui 理事))	7	9	8	8	7	39
デザイン思考とUX概論(山田 敏哉(ヤマダリ サーチ+デザイン 代表))	23	6				29
合計						365

#### 【各講座の実施状況】

- ① -1. 今さら聞けないアントレプレナー超入門
- ① -2. ビジネスモデルキャンバス入門
- ① -3. 起業における金融の役割

今年度から新たに入門シリーズを開講した。3回目は、起業の実際に即した金融面の講義で、「知らない内容が多かったので参考になった」「就業経験のない学生には、信用保証含めた公的支援の情報提供が大切」などのコメントを頂いた。

# ②海外最新イノベーションメソッドと事業開発に学ぶ新規事業開発

新しい商品やサービス、ビジネスモデルを生み出す最新のイノベーション手法の一つである「FORTH INNOVATION METHOD」の詳細と活用事例を全5回の講義で学ぶ講座で、受講者のほとんどはイノベーション創出に向けた意欲の高い社会人であった。受講後アンケートでは、「納得性の高いメソッドと感じた」「実践で使えるイノベーション手法で非常に有益であった」「創業計画を支援するうえでとても参考になった」とのコメントがあった。イノベーション創出を可視化し、体系化・構造化する「FORTH INNOVATION METHOD」の手法は社会人だけでなく、学生・研究者にも有用であると感じた。

# ③イノベーター養成講座

非常に密度の高いオンライン講義が行われ、ゼミ生(受講者のうち演習を行う者)の言語化・プレゼン能力・プレゼン内容が日増しにブラッシュアップされ、成長していく姿が見て取れた。また、オンラインコラボレーションツール(Miro)を駆使して講義を進めるスタイルは、オンライン講義の進め方としても参考になるものであった。

#### ④デザイン思考と UX 概論

「デザイン思考と UX 概論」(講義回・演習回全 2 回)は、昨年度開講し好評であった講座である。本年度は講義回において昨年度収録した講義動画を活用し、演習回では事前に提供した課題を基に演習を行うなど受講者の主体性を引き出す工夫を行った。演習回ではグループに分かれ、講師が用意したペルソナについて、ジャーニーマップを作成するワークショップを行った。短時間ではあったが活発な意見交換と発表が行われた。

# 【まとめ】

昨年度に引き続き、本年度 (2022 年) も幅広い講師陣による様々な講座を企画・提供した。市内 4 大学が参画する「YOXO カレッジ」全体の中でも、本学の秋学期無料講座群は一定の注目を集めており、当センターホームページ及び、YOXO カレッジ・Peatix に開催情報を掲載すれば必ず受講者の応募がある状況となっている。特に本年度は可能な限り全ての講座の受講を試みる方がいるなど、開催 2 年目にして「YOXO カレッジ」における本学提供講座のプレゼンスが高まっていると感じた。

# (2)アイデア創出ワークショップ

YOXO事業アイデア創出ワークショップとは、横浜市にイノベーションを起こすアイデアを持った人を増やすことを目的に、横浜市と横浜未来機構が主催するワークショップである。 横浜未来機構からの依頼を受け、本学も下記の講座を実施した。

# ●「自分の中のアイデア発見ワークショップ」

~内省と対話によるアイデア発想法~

	開催日	内容	出席者数
1日目	2022/11/19(土)	・イントロダクション	
	13:30-15:00	・アイデアを出す心構え(講義)	11
		①自分の興味・関心を深掘りする (個人ワーク)	
		②関心事を共有する (グループワーク)	
		③関心ポイントを絞り込む (個人ワーク)	
		(宿題) 情報を集める、テーマ候補を考える	
2 日目	2022/12/3(土)	④テーマを決める(個人ワーク)	
	13:30-16:30	⑤テーマを分析する (グループワーク)	8
		⑥アイデアのタネを見つける	
		(個人ワーク→グループワーク)	
		⑦アイデアを具体化する(グループワーク)	
		⑧アイデアを表現する(個人ワーク)	
		・発表	
		・テーマからアイデアを具体化する方法: UX デザイン概論	
		(講義)	

# 【担当講師・スタッフ】

株式会社 オレンジテクラボ:宮﨑淳、山田敏哉、宮﨑万莉、大貫貴子

# 【実施形式】

オンライン (Zoom)

ブレイクアウトルームを用いたグループワーク

#### 【講座概要】

本ワークショップでは、内省と対話の手法を用いて、自分起点でアイデア創出を行うプロセスの実践を行った。オンラインミーティングによるワークショップであり、クラウド上でドキュメントを共有しながら、個人ワークとグループワークを織り交ぜて進行した。

1日目のワークショップでは、参加者自身の関心事を分解して深掘りすると共に、他の参加者からのフィードバックにより新たな気づきを得ることで、アイデアのタネにつながる要素の発見を行った。

2日目のワークショップでは、アイデアを検討するテーマ設定から、テーマの分析、アイデアのタネの抽出、価値の表現、実現手法の検討までを、個人ワークとグループワークを交えて行った。

# (3)シュタインバイス大学日本研修

シュタインバイス大学日本研修は、ドイツシュタインバイス大学 SMT (The School of Management and Technology) の MBE (Master of Business and Engineering) コース学生の修める過程の一環として行う異文化交流研修である。本研修においては、課題提供企業から出された海外進出などに関するリアルタイムの経営課題に対して、日独共同のチームで具体的な解決策を提案するグループワークに取り組むことで、インターナショナルなチームワークを疑似体験するとともに、異文化間コミュニケーション・交流を実践する機会を得る。本研修は、毎年夏期(本研修 9 月)、冬期(本研修 3 月)の 2 回開催されている。コロナの影響によりドイツからの来日が困難な状況となりフルオンラインでの開催が続いたが、本年度夏期よりドイツの学生が来日し直接交流する形式で実施された。

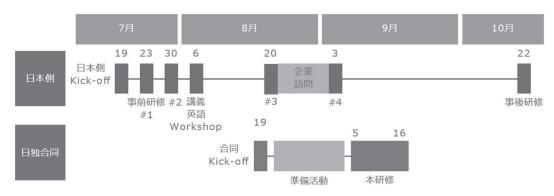
日本側は東京農工大学が中心となり、本学含む複数の大学が協力して日本チームを形成している。本学においても、当センターが主体となって学生を募集し、この研修に協力する形で参加している。今年度は本学 2 名(理工学府 M2、環境情報学府 M1)が参加し、うち1名は中国からの留学生であった。2 名の報告書からは、研修での学びに加え、英語による異文化コミュニケーションに取り組んだ様子が伺えた。

#### 【プログラム概要】研修期間は7月中旬から10月まで(詳細は次項図示)

- ・キックオフ:全体スケジュールの確認と日本側メンバーの自己紹介など
- 事前学習:3回 技術系に不足するビジネス分析手法や企業戦略の枠組みについて学ぶ
- ・専門家インタビュー:起業課題アプローチに関する専門家からの助言を受ける
- ・本研修:9月5日~9月16日 グループワーク及び最終プレゼンテーション
- ・事後研修:研修成果や反省点の共有

# 日本研修の全体スケジュール

# 事前研修~事後研修



● 事前研修・事後研修は土曜日に実施(企業訪問は平日)

# 【本学からの参加実績】

2017年度 3名

2018年度 5名

2019 年度4名(夏期3名、冬期1名)2020 年度6名(夏期4名、冬期2名)

2021年度 2名 (夏期 0名、冬期 2名)

2022 年度 2 名 (夏期 2 名、冬期 0 名)

# (4) スキルセミナー

地域貢献の一環として、オンラインセミナーを企画した。具体的には、Unity 初心者を対象に、基本操作から 3 D モデル作成、データの取り込みやエクスポートなど、ハンズオン形式で体験するセミナーを実施した。特に、最近注目を集めている 3 D都市データ (PLATEAU) の取り込みや、メタバースサービスである Spatial へのオブジェクトデータの配置などを体験し、3 D モデリングやメタバースを身近に感じてもらうことを狙いとして行った。

# 【日程】

2023年3月6日(月)、13日(月)、20日(月)17:00-18:30(全3回)

【参加者数】各回6名ずつ、計18名。

# 【実施内容】

- ・Unity 入門:操作の仕方、UI説明
- ・3D モデルを作る: オブジェクトの作成
- ・アバターを動かす: Third Person Template の使い方
- ・3D都市モデルを扱う: Plateau データの使い方
- ・3D モデル作成・エクスポート (ProBuilder, FBX Exporter)
- · Spatial 体験

【担当講師・スタッフ】株式会社 オレンジテクラボ:山田敏哉、大貫貴子、宮﨑万莉

【実施概要】当初は Unity の環境設定などで手間取る場面も見られたが、最終的には受講者が Unity 上でオブジェクトを作成したり、動かしたりすることが出来るようになった。3D 都市データの読み込みや、メタバース(Spatial)体験も受講者全員が体験できた。3D モデリングの成果物を VR やメタバースで目にすることが増えたが、入門編として 3D データの作成方法から学ぶことが出来た本講義はとても貴重な機会であったと考える。

# (5) 第5回 AOKI 起業家育成プロジェクト「起業家育成講座」

2016年に第1回がスタートした公益財団法人 AOKI 財団主催「AOKI 起業家育成プロジェクト」は、応募時に横浜市内の中学校に在籍または市内在住の中学生を対象とするプログラムで、将来を担う中学生が起業家としてのマインドと知見を持った人材に育つことを目指して行われてきた。これまで実施された4回についても、横浜国立大学は当センターが長年実践してきたアントレプレナーシップ教育・起業支援のノウハウを活用して様々な形での連携・協力を行ってきた。

令和 4 年度は「第 5 回 AOKI 起業家育成プロジェクト」においてプログラム全体の企画・検討サポートなどを行うとともに、令和 4 年 11 月 13 日(日)に本学キャンパス内で実施した「起業家育成講座」を担当した。

久しぶりに対面での講座となったため、参加メンバーが大学の雰囲気を感じられるよう様々な工夫を施した。大学で学ぶことが起業につながった経験を持つ、横浜国大 大学発ベンチャーの方々を中心に「起業家から学ぶ」プログラムをはじめ、開発したアプリを使ってキャンパス探検をして、その使い勝手をモニターとして開発者に伝えるなど、楽しみながらも起業の大変さや楽しさを実感できるプログラムを用意した。また学生ベンチャー「ヨココネクト合同会社」がコーディネートするワークショップで、起業家と一緒に起業について語り合うことで、参加者全員が様々な気づきを得た。実施後の振り返りで、非常に満足度の高いプログラムであったことが確認できた。





当日の様子(1)

# プログラム概要

◇ 開催場所 横浜国立大学 都市科学部講義棟 104

◇ 2022年11月13日(日)

✓ 2022年11月13日	1 (口)		
時間		内容	講義等 主担当
9:30-9:45	オリエンテーション	1日のスケジュールとスタッフ紹介	船場 ひさお
		起業の経緯	アルケリス(株)代表取締役
9:45-10:30	起業家から学ぶ	将来への展望	CEO
	起来家がり子ふ	起業に必要だったことは	㈱ニットー代表取締役
10:30-10:45	7	ディスカッションとアルケリス体験	藤澤秀行
10:45-11:00			-
11:00-12:00	博士卒の 起業家から学ぶ	事業内容と目指している社会 大学での研究と起業	水井涼太 西岡隆愓 小倉里江子
12:00-13:00		昼食	
13:00-14:00		キャンパス探検(YBT見学他)	小倉・西岡
14:00-15:00	博士卒の 起業家と学ぶ 1	《ワークショップ形式》 顧客に価値を届ける	ヨココネクト
15:00-16:00	博士卒の 起業家と学ぶ 2	《ワークショップ形式》 仲間を集める・資金を集める	水井・西岡・小倉・船場
16:00-16:10	休憩		•
16:10-16:25	大学生起業家から学ぶ	学生で起業して良かったこと・大変なこと	渡辺洋平
16:25-16:45		まとめのディスカッション	全員
16:45-17:00		感想文作成	船場

◇ 対象者 横浜市在住・在学の中学生 12名

◇ 講師&スタッフ 船場ひさお 一般社団法人こどものための音環境デザイン 代表理事/横浜国大 客員教授

水井涼太 特定非営利活動法人 ディスカバーブルー 代表理事/横浜国大 非常勤講師

小倉里江子 横浜バイオテクノロジー株式会社 取締役/横浜国大 連携研究員

西岡隆暢 Localist株式会社 取締役/横浜国大 非常勤研究員 渡辺洋平 ディアベリー株式会社 代表取締役/横浜国大経営学部4年

◇ファシリテート 江川海人 ヨココネクト合同会社 代表/横浜国立大学都市科学部 3 年

他 ヨココネクトメンバー 3名

◇ ゲスト講師 藤澤秀行 アルケリス株式会社 代表取締役CEO/横浜国大工学部卒業生









当日の様子(2)

# Ⅲ. ベンチャービジネス支援事業

# 1. ベンチャー支援施策『フェーズⅠ』、『フェーズⅡ』

ベンチャービジネス支援事業では、組織の前身であるベンチャービジネスラボラトリー (VBL) 時代からの取り組みにおいて、本学ポスドクを中心に 10 社を超えるベンチャーの 起業を支援してきた。また、社会的課題解決に取り組む起業支援や、理工系の教員に呼びかけて大学内の研究シーズによる学内ベンチャーの創出を推進するなどの取組を行ってきた。 2020 年度はコロナ禍の影響で活動を中断していたが、2021 年度より活動を再開し、今年度は次のようなスキームで事業を展開した。

- ○フェーズ I (支援期間 1 年): 学生のベンチャー構想作り支援 ベンチャーマインド旺盛な学生・ポスドクを対象にビジネスプラン開発の支援を行う。
- ○フェーズⅡ(支援期間 1~2 年):創業間近の大学発ベンチャー支援 法人化を検討している学生や教員を対象に法人設立準備の支援をする。

今年度はフェーズ I に 4 件の応募があり、プレゼン選考の結果、3 件を採択した。うち 1 件が採択後支援辞退となった為、支援対象は 2 件となった。フェーズ II には応募がなかったが昨年度からの継続案件 1 件を採択した。

#### フェーズI支援対象者

	氏名	タイトル	担当教員/アドバイザー
1	岩本 海人 /都市科学部3年	交流デザインが社会を変える「ヨコ コネクト」	船場 ひさお/ (先端科学高等研究院) 小清水 実
2	布施 虎太郎 /都市イノベ修士2年	VRを用いた建築体験ツール -建築学生の作品を社会へ-	為近 恵美

# フェーズⅡ支援対象者

	氏名	タイトル	担当教員/アドバイザー
1	本橋 永至 /国際社会科学研究院 准教授	AIを活用した知財リーガルテック	為近 恵美/ (研究推進機構) 横尾 泰

以上の通り、本年度は複数の案件の応募/採択があり、担当教員・アドバイザーの支援の下 活発な活動が行われた。また昨年支援した案件から1名の起業者(法人設立)を輩出した。

#### ● 株式会社ぐるり

神奈川県横浜市 2022年8月設立 代表取締役:経済学部4年 中野 賢伸

また実際に応募があった案件以外にも学生からの相談に乗る等、センターとして大学発ベンチャーの推進を行っている。

# 2. ベンチャー支援採択者その後の活躍

●株式会社ディアベリー 渡邊洋平(2021年度フェーズ I 支援)

多くの鹿が捕獲されたまま廃棄されてしまうという現状を変え、命に責任を持つ社会を目指し、鹿の魅力を多くの人に届けていく

#### <受賞歴等>

環境省「TJ ラボ」採択/埼玉県横瀬町「よこらぼ」実証実験採択/サステナブルセレクション表彰/横浜国立大学ビジネスプランコンテスト最優秀賞/神奈川県「かながわ SDGsパートナー」認定/ちばぎん・はまぎん学生ビジコン 2022 SDGs アイデア賞受賞横浜国立大学発学生ベンチャー称号認定

●株式会社ぐるり 中野賢伸(2021年度フェーズ I 支援) 位置情報と連携した観光音声ガイド・情報サービス「GURURI」を提供 <受賞歴等>

横浜ビジネスグランプリ 2022 ファイナル進出/ちばぎん・はまぎん学生ビジコン 2021 はまぎんアイデア賞受賞/MIT-VFJ ベンチャーメンタリングプログラム採択/AGORA LEVEL UP STAGE2022 受賞/NEXs Tokyo スタートアップ採択

横浜国立大学発学生ベンチャー称号認定

# 3. 他のベンチャー支援プログラムとの連携

起業支援に関わる外部連携、地域連携の一環として、神奈川県の関連団体が主催する「かながわビジネスオーディション」において、センター専任教員が評価機関として審査委員を務めている。また、横浜銀行との包括連携協定に基づき「ちばぎん・はまぎん学生ビジコン」においても最終審査会の審査委員として参加した。

当センターでは、起業に興味を持つ学生への情報提供のため、自治体や公的機関の推進するベンチャー支援施策をセンターHPを通じて紹介したり、個別に学生に案内したり、学生へのベンチャー関連情報の窓口としての機能も果たしている。今後も、学内のシーズを掘り起こし、本施策と内外の起業支援施策を併用しながら学内ベンチャーの推進を心がけ、起業活動の活性化を目指す。

# 4. セミナー開催

学内全体に対する起業家意識の醸成のため、研究開発ベンチャーのセミナーを企画、実施 した。

· 日時: 2022 年 4 月 15 日

・場所:本学図書館メディアホール+Zoomによるハイブリッド開催

・講演者:株式会社オキサイド 代表取締役社長 古川保典氏

・講演タイトル:「研究開発型ベンチャーの起業と事業拡大」

• 対象: 本学 教職員、大学院生、学部生

(株) オキサイドは、2000年に、国家公務員兼業制度利用第1号として、独立行政法人物質・材料機構から古川氏が起業した会社であり、2021年4月に東証マザーズ市場に上場した。本セミナーでは、研究成果のビジネス化や戦略的事業拡大のポイントについてご講演をいただいた。講演はメディアホールだけでなく Zoomによるライブ配信も行い、参加者は会場65名に加えオンライン60名の合計125名と盛況であった。質疑応答でも活発な質疑が飛び交い熱気あふれる講演となった。



# 1. 活動全般

当センターでは、ドクターキャリア開発事業として、博士の学位を取得したドクター人 材が、アカデミアだけにとどまるのではなく、ベンチャー企業を含む民間企業など幅広く 社会で活躍できるよう、人材育成と多様なキャリアパスの提示を目指したキャリア支援事 業を行っている。本事業は、当初 2012 年度より 4 年半に渡り、文部科学省の補助金

(JST 委託)を受け『ポストドクター・キャリア開発事業』として実施してきた。ポスドク研究員に企業に目を向ける機会を与える長期インターンシップや、グローバルキャリア開発研修、社会に出て通用する様々な研修としてリーダー養成講座などを行ってきた。補助金の終了した2017年度以降は、学内のニーズに合わせて主な対象をポスドクから博士課程後期(博士)の学生にシフトし、事業内容の見直しと効率化を図ることで、自立後継事業として継続してきた。

このような活動は、全国の大学で様々な形で実施しており、いくつかの大学が、コンソーシアムとして協力体制を取っている。本学も北大を中心とする「連携型博士研究人材総合育成システム」に参画し、年に数回の専門委員会で意見交換し、互いのイベントに学生の参加枠を設けて相互乗り入れをしている。本コンソーシアムへの参加大学は、北大、東北大、名古屋大、お茶の水女子大、横浜国大、立命館大、兵庫県立大、阪大、OIST、神戸大、筑波大、新潟大の12大学である。

この事業の一環として、2015年度より博士人材と企業とのマッチングイベント「キャリアパスフォーラム」を本学主催で開催している。また、このイベントをより広く学生に知らしめ、有意義なものにするため、様々な施策を行ってきた。今年度もコロナ禍の影響で例年通りとは行かなかったが、学内イベントとしては、オンラインによるメリットを活かして、外部講師による博士向けキャリアセミナーや業界研究セミナーなどを実施した。

なお、当センターが実施した広報・相談活動は、以下の通りである。

- ・オリエンテーション: 当センターが行う博士向けキャリア支援事業について、新入学および在学の博士課程後期生に対し Zoom によるオンライン説明会を行った。授業支援システムを通じて広報し、4/7(木)、4/14(木)と 2 回(2 回目は 1 回目の録画配信)実施、合計 28 名が参加した。
- ・ $\mathbf{D}$  キャリ情報版:登録者に対して、博士向けのインターンシップやセミナー・イベント情報などを不定期にメールで配信。今年度は 50 報を発行した。今年度末時点の登録者は計 90 名(博士: 72 名、修士: 15 名、ポスドク: 3 名)であった。
- ・ドクターキャリア相談室:主に博士の就職相談や、博士進学に迷う修士などの相談に乗る大学院生向けの相談室を毎週水曜日の2・3限に開設した。実際には、事前にメールで予約を取り、相談者の都合に合わせて、面談をオンラインにて実施。面談は、企業の研究

開発部門での経験のある実務家教員として、ドクターキャリア開発担当の教員が基本的に 2名で対応する。今年度は延べ40件(9名)の相談があった。また、製薬系企業志望D2 学生についてコンソーシアム連携大学の立命館大板倉先生に面談にご協力いただいた。

・インターンシップ:企業から直接募集案内のある大学院生向け長期インターンシップについて当センターが窓口となり取りまとめている。今年度、東芝研究インターンシップについては応募者 0名であった。京セラ研究インターンシップについては理工学府 D2 学生 1名が応募、採択された。実施期間は 2023年 1月 17日~2023年 1月 30日、すべてオンラインで実施された。

# 2. 企業と博士の交流会:キャリアパスフォーラム

博士人材が広く社会で活躍することをサポートするため、年1回企業と博士のマッチングイベントを実施している。今年度もコロナ禍の影響から、下記の通りオンラインで実施した。

==== <オンライン>キャリアパスフォーラム ====

日時: 2022年10月27日(木) 13:00~18:00

方法:Zoomによるオンライン開催

狙い:参加企業への自己アピール能力向上、将来の進路に対する視野を広げる(学生) 企業・研究機関が求める人材像の把握、ネットワーキング・関係作り(企業)

内容:【事前情報提供】

- ·企業紹介動画・採用情報(学生へ)
- ・学生のプレゼン資料(企業へ)

# 【当日】

- 博士のプレゼンセッション (学生毎 Zoom ブレイクアウトルーム活用)(設定面談:8分×10回、自由面談:20分×1回)
- ・個別相談会(会社毎 Zoom ブレイクアウトルーム活用)(設定面談:15分×6回、自由面談:15分×2回)

#### 参加企業(16社、五十音順):

国立海上技術安全研究所、神奈川県立産業技術総合研究所、京セラ、コニカミノルタ、島津製作所、住友化学、住友金属鉱山、ソニーグループ、TDSE、テクノプロ テクノプロ・ R&D 社、テルモ、東京エレクトロングループ、東京都立産業技術研究センター、とめ研究所、日立ハイテク、マイクロンメモリジャパン

# 参加者数:

博士課程後期生、ポスドク研究員 34名 (内、本学 10名) 企業 40名



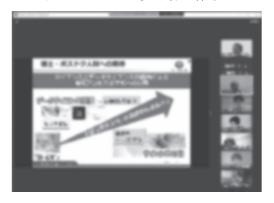


三宅理事・副学長による開会の挨拶



学生のプレゼンセッションの様子

メインルームでの参加者の様子



企業の個別相談会の様子

今年度も昨年度に引き続きオンライン開催となったが、短い時間の中で一人一人とより深くコミュニケーションしていただけるよう改善を行い、「有意義だった」「想像以上の学び」「効率よく接点を持てた」など企業・学生双方から昨年度を上回る高評価(満足」又は「やや満足」 合わせて 100%)をいただいた。オンライン開催については、「これまでに蓄積された経験・ノウハウが活用されて対面でなくとも最大限交流が可能なイベントになっていると実感した」と評価する意見もある一方、「やはり対面での交流が出来ればありがたい」と対面コミュニケーションを希望する声も寄せられた。

# 3. 各種イベント・セミナー

# (1) ソニーグループ勝本氏講演会

目時: 2022 年 7 月 6 日(水) 14:40~16:00

方法:Zoom によるオンライン開催

対象:横浜国立大学在籍の学生・ポスドク・教職員、博士人材育成コンソーシアム連携大 学の大学院生

テーマ:「ソニーグループの R&D の姿勢と博士学生の方々への期待」~これからの社会 の進化を支える、R&Dの在り方~

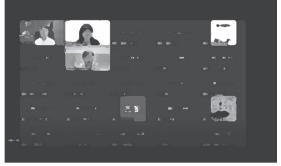
講演者:ソニーグループ株式会社 シニアアドバイザー、ソニーユニバシティ学長(ソ

ニーグループ元副社長(CTO、R&D担当)) 勝本 徹氏

参加者数:43名(内、本学学生25名(博士8名、学部・修士17名)、教職員8名)







講演会の様子

2022 年 3 月までソニーグループの CTO として R&D を率いてきた勝本氏より、海外赴 任、新規事業の立ち上げ、他社との協業など、40年のソニー人生を通じて得られた、これ からの社会の進化を支える R&D に必要なエッセンスやソニーの R&D で取り組んだ施策 についてご紹介頂き、未来を担う学生の方々への期待についてもお話し頂いた。質疑応答 も活発に行われ、「実際に CTO として最前線で活躍してきた勝本氏の言葉であるからこ そ説得力があり、今後のキャリア形成の刺激となった」といった感想が寄せられるなど、 非常に実り多い講演会となった。講演に際して周到な準備を行い、また、講演後、事前に 募集した質問すべてに対して、丁寧な回答をいただいた勝本氏に感謝する。

# (2) キャリアセミナー「今からはじめる博士のキャリア戦略と自己アピール」

日時: 2023年2月28日(火) 15:15~16:45

方法:Zoom によるオンライン開催

対象:横浜国立大学在籍の学生・ポスドク

講師:株式会社エマージングテクノロジーズ 代表取締役社長 深澤 知憲 氏

狙い:博士あるいは博士進学を目指す修士の学生に、博士号取得後のキャリア形成につい

て考える契機を与え、早めの準備を意識させる

参加者数:22名(博士:4名、修士:16名、学部・研究生:各1名)※本学限定





講師の深澤様

チャットを用いたブレスト

博士のキャリア指導経験豊富な深澤氏より、博士号取得後の多様なキャリア、就職活動スケジュール等、モデルケース別の具体的なキャリア戦略について講義いただいた。アンケートでは「キャリア開発を意識的に行うきっかけになった。」「今後の進め方で自分の思慮が足りなかったところに気づけた。今後に活かしたい。」などの感想が寄せられた。

# (3) 学内イベント「先輩博士の就活体験談 ~内定者に聞く~」

日時: 2022年6月16日(木) 12:10~12:50

方法:Zoom によるオンライン開催

対象:横浜国立大学在籍の学生・ポスドク

内容:企業からの内定を得た本学理工系博士学生2名に、就職活動の体験談を1名15分

ずつ(質疑含む)お話しいただいた。

参加者数:16名(博士:10名、修士:6名)※本学限定

研究に忙しい中、いつから、どのように活動されたのか??登壇者の2名にはあらかじめ申込者からの事前質問(アカデミアとの選択について)を伝え、就職活動内容・スケジュールと研究との両立を中心にお話いただいた。アンケートでは「実際の先輩方の就活スケジュールや、企業選択の軸を聞けたことは参考になった。特に今はインターンの時期でもあったため、時期的にもちょうどよかった。」「スケジュール感が一番知りたかったので、助かりました。」などの声が聞かれ、満足度の高い情報交換会となった。

# (4) 共催イベント

昨年度に引き続き SEAJ (一般社団法人 日本半導体製造装置協会) との共催により、 半導体製造装置業界の概要や最新技術動向、将来展望などを学部生・大学院生に広く知っ てもらう狙いで、業界研究イベントを開催した。

イベント名:若手技術者が経験を語る~半導体関連メーカ特集 2023~

日時: 2023年1月18日(水) 16:20~18:20

方法:Zoom によるオンライン開催

対象:横浜国立大学在籍の学生・ポスドク、博士人材育成コンソーシアム連携大学、個別

連携大学の学生

当日プログラム:

16:20~ 開催挨拶・業界紹介

16:30~ 各社若手技術者のショートプレゼン (3分×5社)

16:55~ 企業別ブースに分かれてプレゼン・質疑応答(15分×3回)

17:50~18:10 フリータイム (20分)

参加企業:5社(キヤノン、東京エレクトロングループ、ニューフレアテクノロジー、エイブリック、日本電子)

参加者数: 29 名(本学 18 名、他大学 11 名) 事前申込: 44 名(本学 27 名、他大学 17 名)

企業別ブースプレゼンの初回のみ偏りがみられたがその後訪問者 0 名のブースは無く、 参加企業・学生双方にとってバランスよく少人数で密に交流できていた。アンケートから 「質問がしやすかった」「体験談が大変参考になった」との回答から、半導体業界への関 心が高い学生・就職活動を意識する学生に対して有意義な機会であったことが伺えた。

# 4. コンソーシアム活動

北大、東北大、名古屋大を中心に、12 大学が連携して博士人材育成のためのコンソーシアムを形成し、情報交換や共有プログラムの相互提供などの活動を行っている。具体的には、各大学で主催するプログラムに他大学の参加枠を設けることで、博士人材に多種多様なセミナー・交流会参加の機会を提供している。

また、今年度初めて12大学合同企画の企業説明会「12大学合同!企業と博士の交流会2022」(8/4,5 開催)を実施し、企業約50社、12大学全体で280名超の申込みがあり、本学からは10名の博士学生が参加した。

コロナ禍により、オンラインイベントが増えたことで、遠隔地の大学イベントにも参加 しやすくなり、相互乗り入れが増えてきている。 今年度は他大学から 135 件のプログラムが共有された。今年度の本学学生参加状況については以下の表の通り。

No.	主催	タイトル	開催方法	開催日	YNU 参加者数 (人)
1	東北大学	博士リテラシー育成塾	Zoom	5/10~7/5 毎週(火)	1
2	新潟大学	キャリアマネジメントセミナー (全 15 回)	Zoom	4/8~7/2 毎 週(金)	延べ 6
3	立命館大学	キャリアマネジメントセミナー (全9回)	Zoom	4/26~7/12 毎週(火)	延べ3
4	神戸大学	博士のためのキャリアガイダンス	Zoom	7/8	2
5	北海道大学	Improving Your Oral Presentation Skills(英語プレゼ ンセミナー)	Zoom	7/14	2
6	12 大学合同	12 大学合同!企業と博士の交流会~博士を求める 100 社が集結!~	oVice	8/4,8/5	10
7	北海道大学	CAREER LINK MEETUP(赤い 糸 ONLINE 英語版)	Zoom	11/22	5
8	お茶の水女 子大学	ワークインプログレス 2022	Zoom	10/19	1
9	北海道大学	Writing a Manuscript for Journal Submission (英語論文執筆セミナー)	Zoom	12/1	2
10	北海道大学	マインドフルネス入門セミナー~ セルフケアと自己探求~	Zoom	12/19	1
				計	33

# YNU 横浜国立大学

地域連携推進機構 成長戦略教育研究センター